

宮城の白石倉庫に1億円

商工中金初のインパクト融資

商工組合中央金庫は11日、環境保護や社会への貢献と運用収益の両立をめぐす「インパクト融資」の全国第1号として宮城県の白石倉庫（白石市）に1億円を融資したと発

表した。環境負荷低減と企業の収益向上で8項目のKPI（重要業績評価指標）を設定。7年の融資期間中は定期的に到達度を確認する。

白石倉庫は宮城県内に15カ所の倉庫を保有し、農産物や食料加工品、自動車部品など幅広い商品を扱う。資金は運転資金や設備投資資金として活用する。目標達成のため、項目ごとにKPI推進リーダーを選任して管理体制を強化する。

同社が設定したKPI

の目標には2022年3月の保管能力（約4万4000ト）を23年3月に約4万8000トまで引き上げたり、バッテリー駆動のフォークリフトの比率を29年までに5割増の63%に引き上げたりする目標を盛り込んだ。

商工中金は22年度から3年の中期経営計画で新たに「サステナブル経営支援」を戦略の主軸に掲げており、インパクト投資も拡大する方針。今回

の融資ではインパクト評価を商工中金経済研究所（東京・港）が実施し、日本格付研究所（JCR）から第三者意見を取得した。